

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	百貨店（営業担当）	・社会的に認知されたウォームビズなどの新しい需要が期待できる。
		家電量販店（経営者）	・白物家電や台所用品で、まだ使えるにもかかわらず、新しい機能、新しいデザインの商品への買替えがかなり見受けられ、今後に期待できる。例えば両開きドア冷蔵庫、乾燥機能付き洗濯機、ハイパワーサイクロン掃除機、水蒸気オープンレンジ、圧力IHジャー炊飯器などである。
		家電量販店（店員）	・プラズマ・液晶テレビ、冷蔵庫などの大型商品の新製品が年末に向けて相次いで発売されるため、数字は順調に伸びる。
		乗用車販売店（総務担当）	・10月から新車種が投入されるため販売台数の底上げが期待できる。また、11月にはコンパクトカーのモデル一新が予定されており、これも売上拡大につながる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・当社の既存店の買上点数は前年比で0.1点増加、客単価は30円増加している。この増加傾向は3か月続いており、徐々に上向き傾向にある。
		スナック（経営者）	・来店客からは所属する企業の繁忙ぶりや株価の上昇などの話題が聞かれ、店内の雰囲気にも明るさが広がっている。
		旅行代理店（従業員）	・愛知万博の閉幕により、当地の温泉の予約状況は改善する。また、上海への定期便が10月下旬から就航するなど明るい材料もある。
		通信会社（営業担当）	・10～12月の携帯電話の新機種発売に伴い、種々のサービスも実施されるため、冬商戦に向けて来客数が増加する。
	テーマパーク（職員）	・愛知万博の閉幕による来場者数の回復に加え、海外からの団体客の獲得が若干見込める。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・これから冬物のシーズンとなるが、ガソリン代の値上げなど周囲の状況が厳しいため、客がファッションに多くの金をかけることは期待できない。
		スーパー（店長）	・店舗の改装により来客数は増加するが、客単価は厳しくなる。今後、ガソリンや灯油の高騰の影響が家計を直撃し、客が必要な商品を安い店で購入する傾向が更に強くなる。
		スーパー（店長）	・重油の高騰により、原材料の値上げが10月から始まるが、年内は販売価格に跳ね返らないため、売上面からみた景気動向は変わらない。しかし、来年度の消費動向は不透明である。
		スーパー（営業担当）	・必要な物を必要なときに買うという客の購買態度は定着しており、価格が特に安くなっても余分には買わない。また、灯油の高騰による暖房費の増加が家計の圧迫要因となる。
		スーパー（副店長）	・暖冬で重衣料の販売不振が予想されるため、ウォームビズ関連のヒット商品が誕生することへの期待が大きい。
乗用車販売店（経営者）		・ガソリンの値上げや増税懸念を理由に買替えを渋る傾向が高級車の客ほど強くなっており、景気の回復感は感じられない。	
	自動車備品販売店（従業員）	・消費税や所得税の増税が懸念されており、消費者の先行き不安感はぬぐえない。一部の高額所得層と一般層との購入意識の差が広がっている。	
	高級レストラン（スタッフ）	・愛知万博が閉幕し、団体旅行の予約や問い合わせが例年並みになってきたが、大幅増とまではいかない。	
	観光型旅館（経営者）	・愛知万博の閉幕後の予約が前年比で約5%減少しており、期待していたほど伸びていない。	
	観光型旅館（スタッフ）	・愛知万博が終わっても、秋、冬の予約状況が回復するにはまだ時間がかかる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊とレストランの通常営業はほぼ前年並みを見込んでいる。レストランウェディングの受注状況は好転しているが、婚礼宴会は受注状況に回復感があるものの前年を下回っており、加えて一般宴会の受注状況が一進一退となっているため、全体では前年を下回る見通しである。	
	タクシー運転手	・タクシー増車の動きは運転手が確保できないため、ほとんど止まった。しかし、タクシーの稼働台数は減らず、利用客は増えないため、今後の状況は変わらない。	
	テーマパーク（職員）	・愛知万博という大きなイベントが終了したものの、客の旅行需要が先食いされた形である。予約状況を見ても、前年比で今月と同様の厳しい数字となっている。	

		競輪場（職員）	・入場者数は若干減少しているが、1人当たり売上高はここ2、3か月横ばいであり、当面はこの傾向が続く。	
		住宅販売会社（総務担当）	・企業努力で話題を盛り上げて、税制改正などの外部要因により客の購入意欲がそがれる。	
やや悪くなる		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・販売量の減少や販売価格の下落など厳しい状態が続いているが、現状の引き合いや見込みからみてさらに悪化する。	
		百貨店（営業担当）	・冬物も前倒しが予測されるが、今年は重衣料のコートのトレンドが特に聞かれず、また昨年に比べてコートからジャケットへのシフトが進んでいる。この結果、客単価が低下し、売上実績は伸び悩む。	
		スーパー（店長）	・競合店の出店やガソリンの値上げ等により、利幅が縮小する。	
		スーパー（総務担当）	・ガソリンの値上げ、社会保険料の増加などの影響を受けて、客の購入量が減少する。	
		コンビニ（経営者）	・ここ数か月の傾向をみると、周辺アパートの居住者の減少が続いているため、来客数が落ちている。8、9月は天候に恵まれたが、これから寒くなると、この人口減がもろに影響し、来客数がさらに減少する。	
		衣料品専門店（経営者）	・本来であれば秋物の売上が上昇する時期であるが、商店街の再開による大型ショッピングセンターの工事が進み、通行客、来客数ともに減少するため、売上は今後も伸びない。	
		タクシー運転手	・タクシーの燃料費の高騰が経営の圧迫要因となっているが、競争が激しいため、その分をタクシー料金に転嫁することができず、先行きは厳しい。	
		パチンコ店（店員）	・遊技機がマンネリ化し、人気台が登場しないことから、先行きは悪化する。	
		悪くなる		商店街（代表者）
企業動向関連	良くなる		一般機械器具製造業（経営者）	・受注量・販売量、受注価格・販売価格などが好調に推移している。特にツーリング（切削工具）が入手困難になっており、工作機械の稼働率のさらなる向上がうかがわれる。
	やや良くなる		繊維工業（経営者）	・新しい企画商品が消費者のニーズにマッチすれば、株価の上昇が追い風となり、販売量の増加が期待できる。
			電気機械器具製造業（経理担当）	・在庫調整は終了しているため、徐々に注文が増加する。
			輸送業（配車担当）	・原油価格の高騰によるコスト高の懸念はあるが、株価の上昇などを背景に物量は持ち直しており、増加の期待感がある。
			通信業（営業担当）	・事業所用の光回線IP電話の引き合いが出てきている。今までの電話番号がそのまま利用でき、かつコスト削減につながるためと思われる。一般家庭用の光回線IP電話については、ショッピングセンターなどのイベントで申込が増加しており、明るい兆しがみえる。
	変わらない		繊維工業（経営者）	・繊維業界では受注の先行きがますます不透明であるうえ、石油値上げの影響で企業収益の苦しい状況が続く。
			金属製品製造業（経営者）	・2、3か月先の注文の入り具合は現状と変わらない。
			通信業（営業担当）	・携帯電話の販売台数は減少傾向が続く、また月額使用料については下げ止まる傾向にある。
			金融業（融資担当）	・これまで有利子負債圧縮に重点を置いていた大手製造業も今後の設備投資に対しては積極姿勢に転換しており、設備投資の増勢はしばらく続く。
			司法書士	・子会社の吸収合併のような事業の整理や多重債務の相談も相変わらず多く、必ずしも景気が上向きとは判断できない。
	やや悪くなる		プラスチック製品製造業（企画担当）	・原油の更なる値上げで、先行きは一層苦しくなる。
			精密機械器具製造業（経営者）	・眼鏡の年内受注予測は年末にかけ下降気味である。各社では新商品開発に努力しているものの、受注につながるのは年明け以降になる。
			建設業（経営者）	・12月工期の工事を完成させるために、それなりに忙しくなるが、不採算工事が多いため、冬季賞与の資金もままならない。
悪くなる		-	-	
雇用関連	良くなる		-	-
	やや良くなる		人材派遣会社（社員）	・派遣社員、正社員を問わず、営業担当の求人が目立っており、先行きに明るさがみえる。

	職業安定所（職員）	・求職者に占める在職者の割合が増加している。これは、現在の仕事より好条件のところを求めているためで、特に非正規型から常用への転職を希望する求職者が目立つようになった。学卒求人の提出状況からみると、近い将来、製造業の受注状況が安定し、常用求人が増加する。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業の雇用はやや拡大しつつあるが、飲食・サービス関連業では求人の増加がみられない。
	職業安定所（職員）	・新規求人は増加傾向にあるが、増えているのは派遣・請負求人であり、求職者の労働条件等が良くなっているわけではない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・工作機械、自動車関連などの好調企業は現状のまま推移していく。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・事業の縮小や廃止により、人員整理を行う企業が増加傾向にある。
悪くなる	-	-